

日本ウマ科学会 2022 年度 第 3 回常任理事会議事録

日 時:2022 年 8 月 5 日(月)13:30~16:00

場 所:日本装削蹄協会(JRA 新橋分館 5 階第 1 会議室)

出席者: 青木 修 会長

田谷 一善 副会長(途中より Zoom 参加)

笠嶋 快周 副会長

山中 隆史 庶務担当常任理事

半澤 恵 会計担当常任理事(Zoom 参加)

楠瀬 良 編集担当常任理事

近藤 高志 学術担当常任理事

桑原 正貴 国際担当常任理事

平賀 敦 広報担当常任理事

佐々木 直樹 臨床担当常任理事(Zoom 参加)

小野 圭一 事務局長

議事次第

- I. 開会…………… 山中 常任理事
- II. 挨拶・議事進行…………… 青木 会長
- III. 各賞選考委員会
 - ①各賞選考委員会報告…………… 楠瀬 常任理事
 - ②その他…………… 山中 常任理事
- IV. 報告および審議事項
 - ①第 35 回学術集会について…………… 近藤 常任理事・事務局
 - ②その他…………… 山中 常任理事・事務局
- V. 閉会…………… 山中 常任理事

議事概要:

議題 1. 各賞選考委員会報告

楠瀬編集担当常任理事から推薦者による候補者の経歴及び推薦理由などの資料を説明。受賞候補者の経歴に問題なし。常任理事、一同賛成。

選考規定に基づき理事会をメールで行い諮り正式決定。

議題 2. 第 35 回学術集会について

近藤常任理事より資料説明。要点は、会場で対面式を前提で準備を進める。感染状況ではオンデマンドに変更するが2日目の内容については現地で予定通り開催し撮影したものを後日オンデマンド開催として実施。1日目は JRA と共催

だが、入場規制するかは決まっていない。日本ウマ科学会は委員会や一般講演を実施の方向。

（伯楽会の展示）

会長から絵画の展示は可能かという質問。事務局の回答は、前回と同じように企業展示の事務局に依頼予定。企業展示の事務局と相談し、前回と同程度のスペースを確保し、企業展示のブース費は徴収せず、学術集会参加者として参加していただくものとする。（前回については8名程度の参加で学術集会参加費を支払って参加していることを確認。）ヒポファイルへの掲載は、可能であるが色調の問題もあるため出展者の意向を聞いて掲載するか検討したい。

（シンポジウムについて）

シンポジストはドーピングに関する内容なので JRA および競走馬理化学研究所、乗馬から JEF の天谷氏に参加いただくことを説明。

（オンデマンドになった場合の日程の問題）

事務局より、状況の変化によってオンデマンド開催に変更する場合、一般講演については音声付き動画を改めて提出願ってオンデマンドに切替。表彰に関する講演や特別講演、シンポジウムは2日目に撮影編集し後日掲載。おおむね2週間後からオンデマンドの開催なら対応可と回答。

（学術集会参加費の値上げ）

事務局より原案を説明。青木会長より学生の参加費を上げるべきではないのではないかという反対意見。事務局としては、非会員参加者については、負担はあるが参加費を支払っていただき、正会員への移行を促したいという意見。半澤会計担当常任理事より、今回の値上げは単年度なのか、次年度以降も継続するのかという確認。事務局からは物価高騰、会場費の値上げなどもあり、今後も継続と回答。笠嶋副会長より、参加費を高くすることで、学生の方には非会員の参加費の額をあげる代わりに初年度年会費無料などの特典を与えてはどうかという斬新な提案。半澤会計担当常任理事より、大変魅力的ではあるが、入退会を繰り返す学生が現れそうである。学術集会の参加費は理事会マターであるが、年会費は総会マターのことであるので今回の変更になじまないという回答。桑原国際担当常任理事からの内部留保の活用という意見には、毎年の補填は難しく、受益者負担の考えから学術集会参加者で負担すべきとの回答。青木会長より、オンデマンドになった場合も同じ参加費徴収するのか。参加費を返さないのかという質問には、参加費は徴収するし、オンデマンドになっても返さないが、オンデマンドに変更してかかった追加の経費については徴収しない方向との回答。

議題 3. ヒポファイルの取材に伴う交通費について

事務局より事務局案を説明。担当常任理事の了承を得たうえで、使用していただければ問題なし。楠瀬編集担当理事より実際に使うかどうか分からないが、上限を 10 万円として予算設定していただきたい。半澤会計担当常任理事も了承。事務局から少額の旅費は現状通りボランティアとし、使用は遠距離の交通費に限定を依頼。

議題 4. ヒポファイルのオープンアクセス化について

楠瀬編集担当理事より、ウマに関する情報を広く世に知らしめたいという編集委員からの意見があり、オープンアクセス化を切望。しかし、会員の権利保護から、即日オープン化はせずに 2 年経過した時点で決定。事務局からは、2 年経過した時点で目次部分に実際の記事を掲載することで掲載は可能。PV については、オープンアクセス化変更を見ることとすると回答。佐々木臨床担当常任理事から、一般的にオープンアクセス化すると投稿料を取って出版社の収益を上げるが、著者から投稿料を取るのかという質問に、山中庶務担当常任理事から、広く普及したいという考えからオープンアクセスするので、投稿料は取らなくてよいという意見。事務局より、従来通り 2 年以内の原稿については会員になってもらえば過去の号を渡すことで対応。問い合わせが多いようであれば再度常任理事会で検討したい。

(ヒポファイルへの日本語アブストラクト掲載中止)

田谷副会長より経緯を説明。JES のアブストラクトを日本語に翻訳して掲載していた。日本人には日本語を提出してもらっていたが、海外からの投稿は担当編集委員がアブストラクトを翻訳して掲載。今回、編集委員から JES と同時に送付しているので、ヒポファイルに日本語に翻訳したアブストラクトは掲載する必要はないのではないかという意見。半澤会計担当理事は、その意見に賛成で和文と英文のアブストラクトが存在すると二重投稿に近いように映るのでやめる方向で問題ないという意見。桑原国際担当常任理事からは、ヒポファイルに英語のまま乗せるのは悪いことではない。目に留まり読む機会が増えるという意味として意義があるという意見。田谷編集委員長から、編集委員が日本語に訳すことはしないようにするという結論の回答。

(オープンアクセス化に対する編集委員の反応)

笠嶋副会長より、2 年後のオープンアクセス化で既存会員が減るのではという議論は編集委員の中でなされたのかという質問。楠瀬編集担当理事から、編集委員は即時にオープン化したいという意見で、おそらく会員数の増減については考えていない。笠嶋副会長より、学会として会員数を考えないというのは

あり得ない姿勢と意見。佐々木臨床担当常任理事より、著者が編集委員なので広く知らしめたいということに主眼が置かれてしまっているのではないかと意見。楠瀬編集担当常任理事からは、折角作成した原稿なので広く読んでもらいたいと考えている。お金を払ってまで読ませようと思っていないのでオープンアクセスにしてほしいと思っている。会長から、2年であればオープンアクセスしてもやめる人は多くないと思う。普及と会員の維持の2面性があるので状況を見て再び議論したい。山中、本がなくなっても読めるという意味でオープンアクセス化は意味があると思う。

議題 5. 第12回国際馬運動生理学会議 (ICEEP)の日本開催誘致の報告について

青木会長より第12回 ICEEP の誘致の国内委員はウマ科学会内の4名で行ったが、今後は開催の運営準備に向けて国内委員会の発足が必要と説明。そのうち、桑原国際担当常任理事より英国と日本が立候補し、日本に決まったことを報告。そのうえで国際委員からの質問の一部を説明・解説。大きな変更点としては国際委員より、学期末に当たるので9月の開催から10月もしくは11月の開催に変更を提案。都市センターは10月24日～ならば可能という回答を得ている。抄録の登録編集をどのようにするか国際委員と国内委員会で調整が必要。予算については、資料にあるスポンサー料の400万円の一部は日本ウマ科学会から拠出の必要性あり。JRAには余剰金が出た場合には返還。プールという意見が出ていたが難しいと回答済。

青木会長から、国内委員会を立ち上げて問題を処理する必要がある、委員会内に担当者を決めて問題を解決する必要がある。平賀広報担当理事から、抄録の雑誌はICEEPの委員が編集委員をやっている雑誌。プラットフォームを考えるとその雑誌を使いたいと考えていると思う。田谷副会長からは、以前は紙媒体でのことを考えていたが、現在はそのような状況にはないので他の雑誌からその雑誌で問題はないとの回答。

平賀広報担当常任理事から、できるかできないかをはっきり言えばよい団体なので、きちんと意思表示すれば問題ない。半澤会計担当常任理事より、ICEEPに出資する話があったが、会計をきちんと整理しておいて欲しいという意見。

報告 1. VIVAの会長交代について

笠嶋副会長より、恩師である英国の Royal Veterinary College の Roger Smith氏がBritish Equine Veterinary Association (BEVA)の会長になると聞いている。就任後、全世界を外遊予定なので、ウマ科学会の学術集会開催に合わせて、来日してもらい講演してもらいたいと思料。その際JRAと調整してTCなどで実習・講演してもらおうなど検討したいと提案。一同了承。